

氏名	大場良子	部署	看護学科	職名	講師
研究分野	がん看護、緩和ケア、健康心理学				
学位	修士(カウンセリング)				
学歴	1995年埼玉県立衛生短期大学、02青山学院大学文学部教育学科、10年筑波大学大学院人間総合科学研究科博士前期課程				
経歴	2004年埼玉県立大学保健医療福祉学部助手、07年埼玉県立大学保健医療福祉学部助教、11年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師				
所属学会(役職)	日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本がん看護学会、日本ヒューマン・ケア心理学会(理事)、日本健康心理学会、日本カウンセリング学会、埼玉県立大学保健医療福祉科学学会				

【2017年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	保健と健康の心理学 標準テキスト 臨床健康心理学 第5章 がん患者に対する健康心理学的援助 第8章 女性特有の疾患に対する健康心理学的援助	共著	ナカニシヤ出版・P264	羽鳥健司(編) 大場良子	2017.10
2					
3					
(2) 論文					
1	該当なし				
2					
3					
(3) 学会発表					
1	看護師の継続教育におけるPBLを活用した研修プログラムの実態と評価	共著	日本看護学教育学会第27回学術集会、沖縄	○常盤文枝、鈴木玲子、山口乃生子、 大場良子 、宮部明美	
2	PBL・TBL混合型教育プログラムの評価－2年間の縦断調査から－	共著	日本看護学教育学会第27回学術集会、沖縄	○宮部明美、鈴木玲子、常盤文枝、山口乃生子、 大場良子	
3	現任教育責任者が期待する中堅看護師の能力と院内研修の実態	共著	第37回日本看護科学学会学術集会、仙台	○唐沢博子、鈴木玲子、常盤文枝、山口乃生子、 大場良子 、宮部明美	
4	アクティブラーニングによる看護教育プログラムの評価－TBLを用いて－	共著	第37回日本看護科学学会学術集会、仙台	○鈴木玲子、宮部明美、常盤文枝、山口乃生子、 大場良子	
(4) その他					
1	該当なし				
2					
3					
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	婦人科がん体験者が女性性の危機を乗り越えるための心理学的支援モデルの構築(研究代表者)			2014.4～2018.3
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	看護師のキャリア開発に資するPBLを活用した教育プログラムの検証(研究分担者)			2014.4～2018.3
3	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	地域包括緩和ケアの充実に向けた家族への教育支援プログラムの開発(研究分担者)			2016.4～2019.3
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					

1	成人看護学実習Ⅲ	2017.8	災害と災害看護における基礎知識として、災害医療の特徴、災害サイクルにおける看護、災害後のストレスとこころの看護について教授した。国際看護支援については国境なき医師団の助産師に依頼し講義していただいた。	
2	がん看護	2017.10～2017.11	がん医療の基本的知識をはじめ、最新情報を盛り込み、講義だけでなく演習を取り入れて授業を行った。ほか、ゲストスピーカーにがん体験者をお招きした。	
3	成人看護学Ⅲ	2017.11	性と生殖に関する疾患の特徴と、外科治療後の後遺症に対する看護について講義した。	
4	理学療法学科_地域理学療法学演習	2017.11	理学療法学科の演習授業の1コマを活用し、緩和ケアとリハビリテーションについて講義を行った。	
5	認定看護師教育課程(緩和ケアコース) 【専門科目】緩和ケア受ける患者の心理社会的ニーズとケア	2017.10	がんサバイバーの理解と各プロセスに特徴的な心理について、実際の体験者の映像や事例を活用や、患者心理に関する研究成果や患者会支援活動に関する講義を取り入れて授業を行った。そのほか、がん治療後の外見変化とアピアランスケアに関する講義と演習を組み合わせて行った。	
(2) 演習				
1	カウンセリング技法	2018.1	初学者向けの臨床事例を用い、コミュニケーションの基本となる傾聴技法について演習(一部、講義を含む)を行った。	
2	成人看護学Ⅲ	2017.11	PBLを用いて周手術期患者の看護過程の学習を促すための支援を行った。	
	成人看護学Ⅲ	2017.10～2017.11	急性期看護に必要な看護技術(ドレーン管理、トリアージ)演習を行った。	
3	臨床看護実践	2017.4	臨床的な看護場面を設定し、看護実践能力を養うような演習展開を行った。	
(3) 実習				
1	成人看護学実習Ⅱ	2017.5～2017.6	3年生を対象に、内科病棟を使用して8週間(2週間×4クール)の臨地実習指導を行い、個性を踏まえた慢性期、終末期看護の理解を促すように関わった。	
2	成人看護学実習Ⅲ	2017.9	災害看護の理解を深めるために、救急に必要な看護技術演習および、災害に関する机上シミュレーション、救護所設営とトリアージの体験、避難所における看護など、災害看護の全体の運営を行った。	
3	総合実習	2017.7	4年生を対象に、内科/外科病棟を使用して3週間の臨地実習指導を行い、自己課題が達成できるよう支援した。	
4	IPW実習	2017.10	科目責任者(地域担当)として準備、実習支援、事後の対応を担当し	
(4) 論文指導				
1	卒業研究	2017.4～2017.12	学部生3名の卒業研究と論文指導を行った。	
2				
3				
(5) その他				
1	学年担任および国家試験対策プロジェクト	2017.4～2018.3	看護学科3年次生の相談支援と国家試験対策を担当した。	
2				
3				
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	エデュケーションナース研修	自治医科大学附属さいたま医療センター	エデュケーションナース研修	2017.9.11
2	新人担当者研修	川口市立医療センター	新人看護師を育てるとは	2018.2
3				
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称		任期
1	日本ヒューマン・ケア心理学会	理事		2年
2				
3				
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			

2			
3			
5. 学内運営(委員会委員)			
1	該当なし		
2			
3			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の保有状況			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	認定NPO法人オレンジティのスタッフとして、女性特有がん体験者の支援活動を行っている。その他、学内でのがん体験者、家族、友人向けのかんわケアサロン開催		